

[1 1] 東臼杵郡小体連

(学校数 16 校 児童数 1,426 人)

I 年間事業

日 時	内 容	場 所
6月23日(火)	第1回東臼杵地区小体連 理事会・評議員会	諸塙村中央公民館
7月23日(木)	美郷町小学校水泳大会	美郷南学園プール
7月23日(木)	椎葉村小体連水泳大会	椎葉小プール
7月23日(木)	諸塙村水泳教室	諸塙村営プール
10月 8日(木)	諸塙村小学校陸上教室	諸塙村総合運動公園
10月27日(火)	椎葉村小体連陸上大会	椎葉村総合運動公園
10月27日(火)	門川町小学校陸上教室	門川町海浜総合公園
10月23日(金)	第56回宮崎県学校体育研究発表大会に参加 美郷町小体連ポスターセッションで発表	日南市立吾田小学校
2月中旬(未定)	第2回東臼杵地区小体連 理事会・評議員会	諸塙村 諸塙村中央公民館

※ その他、各町村で体育主任会を数回実施している。

II 事業部のあゆみ

1 水泳大会・教室

地区	大会名	実施日	会場
美郷町	美郷町小学校水泳大会	7月23日(水)	美郷南学園プール
椎葉村	椎葉村小体連水泳大会	7月23日(木)	椎葉小プール
諸塙村	諸塙村水泳教室	7月23日(木)	諸塙村営プール

【出場者】 美郷町・諸塙村・椎葉村各校 5・6年児童 (のべ 172 名)

【実施種目】 25m (自由形、平泳ぎ) 50m (自由形、平泳ぎ) 100m リレー

2 陸上大会・教室

地区	大会名	実施日	会場
諸塙村	諸塙村小学校陸上教室	10月 8日(木)	諸塙村総合運動公園
椎葉村	椎葉村小体連陸上大会	10月27日(火)	椎葉村総合運動公園
門川町	門川町小学校陸上教室	10月27日(火)	門川町海浜総合公園

【出場者】 門川町・諸塙村・椎葉村各校 5・6年児童 (のべ 252 名)

【実施種目】 100m走 50mハードル走 女子800m走 男子1000m走
走り幅跳び 走り高跳び ソフトボール投げ 400m リレー

※ 地区によって実施していない種目あり

III 研究のあゆみ

1 研究主題

健やかな心と体をはぐくみ、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習
～ゲーム・ボール運動の指導を通して～

2 主題設定の理由

現代社会は、知識基盤社会と言われ、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会である。このような変化の激しい社会をこれからの中学生たちは生き抜いていかなければならず、そのために必要な力を身に付けていくことが現在求められている。

平成25年6月に閣議決定された「第2期教育振興基本計画」の施策において「子どもの体力の向上傾向が維持され、確実なものとなるよう、学校や地域における子どものスポーツ機会の充実を図る」と記され、体育の授業においても、充実を図ることが望まれている。また、本県の「第二次宮崎県教育振興基本計画」においても目標Ⅱ「生きる基盤を育む教育の推進」施策4「健やかな体を育む教育の推進」の内容として①体力向上の推進、②食育の推進、③健康安全教育の推進が挙げられている。さらに、新体力テストの結果を基に、児童の実態に応じた体力向上プランを作成し、教育活動全体における取組を行うことを推進している。

美郷町の小学校3校（美郷南学園、田代小学校、美郷北学園）はいずれも小規模校である。自然に囲まれている環境ではあるが、近くに公園や運動施設がなかったり、バスや車による登下校で日常的に運動不足に陥っていたりと、遊びや運動の機会が多くあるとは一概には言えない。スポーツ少年団などの活動も各校で盛んであるが、入団していない児童は、放課後の運動時間が少ない。入団している児童の中には、取り組んでいるスポーツの技能は高いが他の運動は苦手な児童もいる。このように、運動能力の2極化は児童間だけでなく、個人内でも広がっていることも考えられる。

美郷町小体連では、柔軟性の向上に焦点化し、柔軟性を高めるための運動を重点的に指導したり、柔軟性を高める環境を整備したりしてきた。その結果、本小体連で作成した「美郷っ子体操」が各学校の教育活動の中に位置づけられるなど、広く周知させることができた。また、体力テストの結果を見ると、少しずつ柔軟性が向上してきている。

そこで、従来の「美郷っ子体操」や各学校での取組を継続させながら、ゲーム・ボール運動の研究に絞り、学び合い活動を充実させ、技能を高めるための手立てを工夫しながら、体育科授業の改善を図り、各校の授業実践に生かすことで、健やかな心と体をはぐくみ、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てることにつながるのではないかと考え、本主題を設定した。

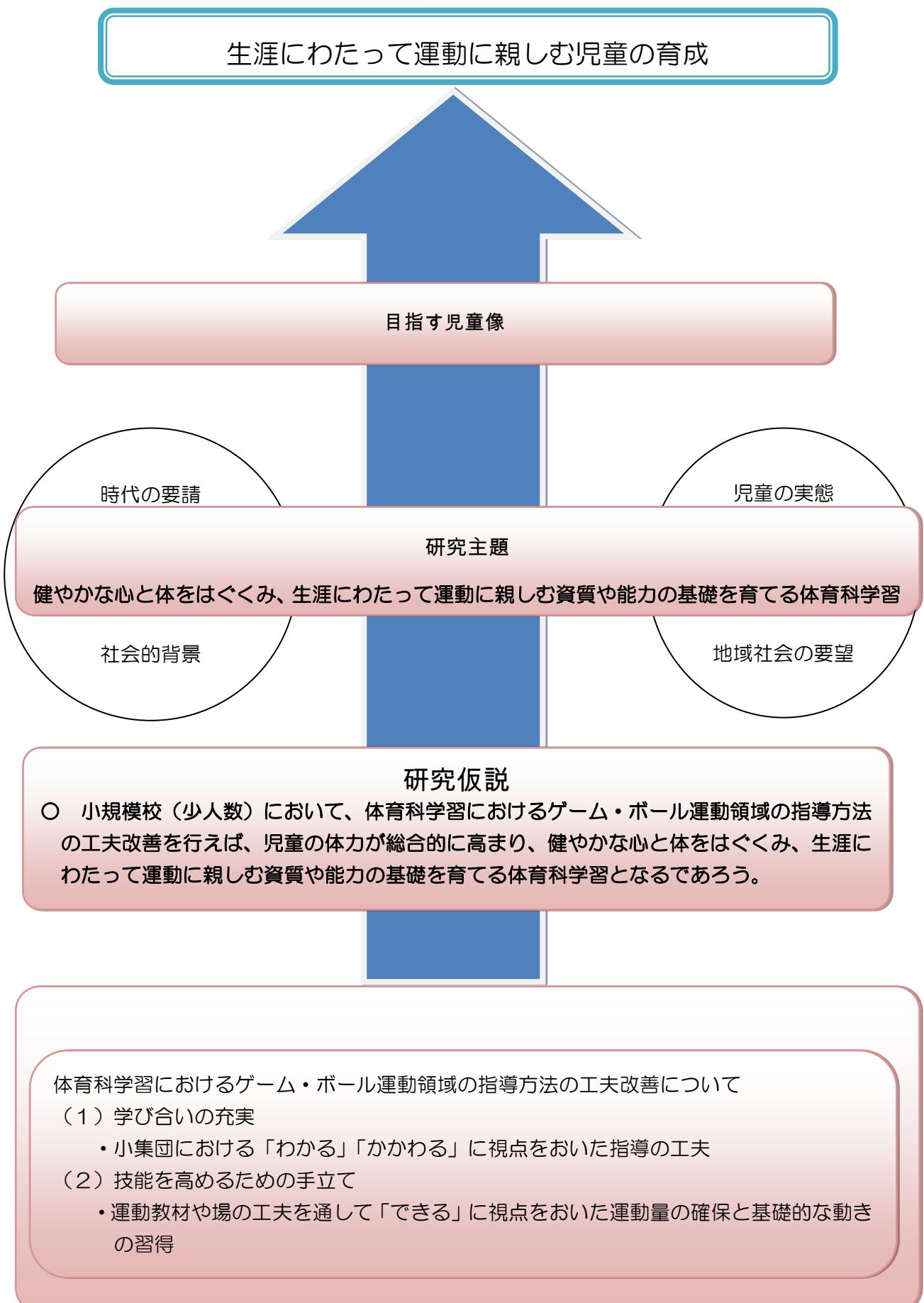
3 研究の目標

小規模校（少人数）において、体育科学習におけるゲーム・ボール運動領域の指導方法の工夫改善を行うことを通して、児童の体力を総合的に高めていくとともに、健やかな心と体をはぐくみ、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習のあり方を究明する。

4 研究の仮設

小規模校（少人数）において、体育科学習におけるゲーム・ボール運動領域の指導方法の工夫改善を行えば、児童の体力が総合的に高まり、健やかな心と体をはぐくみ、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習となるであろう。

5 研究の構想



6 授業の実際

- (1) 「学び合いの充実」を図るために、学習カードを活用して小集団による話し合いを行い、作戦やゲームの振り返りを行った。
- (2) 「技能を高めるための手立て」として、ボールを使った準備運動やタスクゲームを多く取り入れ、ボールの扱い方、実際のゲームに生かす動きに取り組んだ。



【作戦カードの活用】



【あてっこゲーム】



【ボール当てゲーム】



【ボールを使った準備運動】



【三角ランニングパス】



【関所ゲーム】

7 研究の成果と課題

(1) 成果

- 学習過程の前半に基礎となる練習を行い、後半にはゲームを取り入れたことで、児童が個々の技術の向上を実感し、課題を見つけて次時への意欲を継続させることができた。
- 低学年からワークシートを活用するなどして話合う活動を取り入れたことで、主体的に「かかわる」体験をさせることができ、児童の意欲的な取組につながった。
- ボール運動を苦手としていた児童も意欲的に学習に取り組むようになった。

(2) 課題

- 発達段階における技能の習熟について、体育学習指導内容の系統性を明確にしていく必要がある。
- 他の領域でも、研究を広げながら、体育科学習の充実を図る必要がある。

IV まとめ

昨年度までの研究で、小規模におけるゲーム・ボール運動領域において指導方法が充実してきたので、本年度も4町村で継続研究を行った。しかし、研究内容やスポーツ教室の実施内容等は各町村に一任している。そのため、東臼杵郡小体連の研究のあゆみを作成し、各町村の取組を把握し、今後の研究等の参考にしている。